

活用場面

AI

標高の高い地域に関する資料を拡大して投影し、 視覚的に人々の暮らしを考える提示の仕方

活用したソフトや機能：プロジェクターでの投影

学 年：中学校第1学年 教科：社会科

単 元 名：世界各地の人々の生活と環境

○ 本時について(8/9)

(1)ねらい

・標高の高い地域に関する資料から、人々の生活の特色を調べる活動を通して、標高差によって自然環境が異なることに気づき、昼夜の気温差を利用した生活について考えることができる。

(2)評価規準

・標高の高い地域で暮らす人々の生活の特色を読み取り、昼夜の気温差を利用したことを考え、表現している。【思考・判断・表現】

(3)学習展開

過程	学習活動	ICT活用場面
導入	1 高山気候の特性を雨温図から理解する。 2 学習課題を設定する。	・標高差を地図で確認し、イメージをもたせる。
展開	<p>標高が高い土地に暮らす人々はどのような生活をしているのか</p> 3 既習内容をもとに予想をもつ。 ・山の上だから涼しくて快適に過ごしてそうだな。 4 資料から追究し、全体で交流する。 ・荷物を運ぶためにリヤマを飼育している。 ・寒さを防ぐための衣服であるポンチョの材料となるアルパカを飼育している。 ・気温差を利用することで、様々な気温に適した農作物を栽培することができる。	・資料をプロジェクターで黒板に投影し、生徒の意見を視覚化させ、共通理解をしやすくする。 ・雨温図のグラフを比較し、気温や降水量の差を特色として捉えている。
終末	5 まとめ 標高が高い土地に暮らす人々は、気温差を活かして、その気温に適した様々な農作物をつくることや飼育等をして生活している。	

活用の際のワンポイント！

- 1つの社会的事象を拡大して投影することで、みんなで視覚的に見やすく、共有することができます。
- 教師の意図的な資料提示として、雨温図の拡大グラフを比較することで、気温や降水量の差を特色としてみんなで捉えることができます。

実践提供校：瑞浪市立瑞浪北中学校